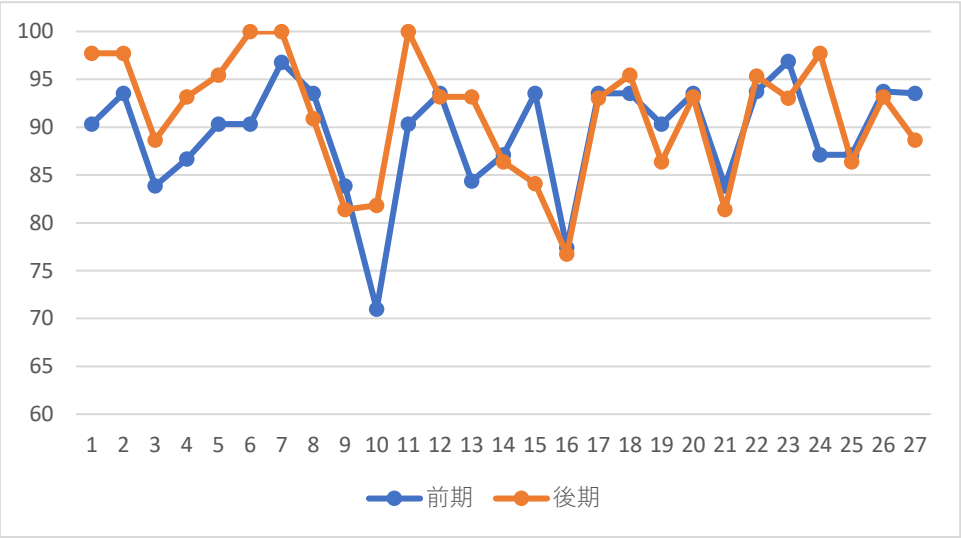
令和6年度 後期 学校評価アンケート考察

・教職員アンケート集計（27項目）（44/44名）
・生徒のアンケート集計（24項目）
（全生徒:91/105名　1年生:26名/35名　2年生:32/33名　3年生:34/36名）
・保護者のアンケート集計（25項目）
（全保護者91名/104名　1年生:23名/35名　2年生:25/32名　3年生:33/36名）

〇考察方法
　それぞれにおいて、「できている」「だいたいできている」の項目を合計したものを、前期と後期で比較し、折れ線グラフで示した。

教職員　　アンケート集計（27項目）



教職員のアンケートでは、おおむね前期よりも後期の評価が高い項目が多かった。
教職員が生徒一人一人に寄り添い、将来を見据えて対応しようとしていることがうかがえる。

＜前期に比べ後期の結果が 10 パーセント以上上がったもの＞
⑥生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している（90%→100%）
⑩生徒の努力や達成度について評価し、個別の包括支援プランの作成や指導法の改良に活かしている（71%→82%）
⑪生徒が友だちや仲間を大切にし、互いに協力しようとする態度が養えている
　（90%→100%）

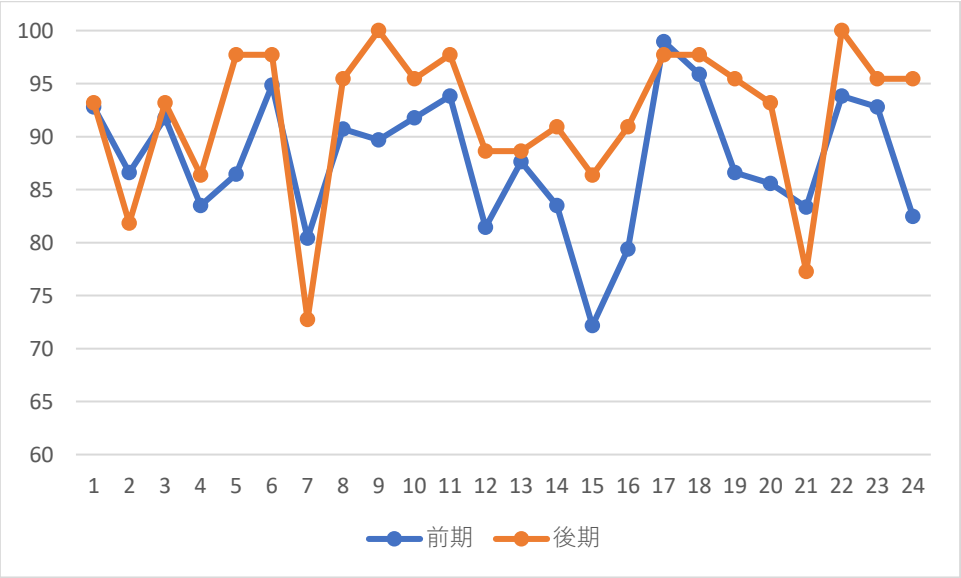
⑬生徒のことを理解できている（84%→93%）
㉔生徒や保護者からの個別相談に対応している（87%→98%）

⑥、⑩について、生徒の実態をより理解することができ、個別の包括支援プランを活用しながら、目標に応じた授業や生徒一人一人に応じたできる状況づくりや支援を提供できていると考えられる。
⑬、⑭について、生徒と関わる時間や様々な行事を通じて、また今年度より全校で取り組んだ個別の教育相談の中で、一人一人をさらに理解することができ、個に応じた対応をより具体的に行うことができたと考えられる。

＜前期に比べ後期の結果が 10 パーセント以上下がったもの＞
⑮生徒には規則正しい生活を送るよう指導している（94%→84%）

⑮については、規則正しい生活を送ることは、学校生活だけでなく、就労後も大切であることを、日々の指導で折に触れて話していく必要があると考える。

生徒　　アンケート集計（24項目）



前期に比べ、おおむね評価があがっている。しかし、前期で低い評価の項目が後期ではさらに低い評価になっている項目も見受けられる

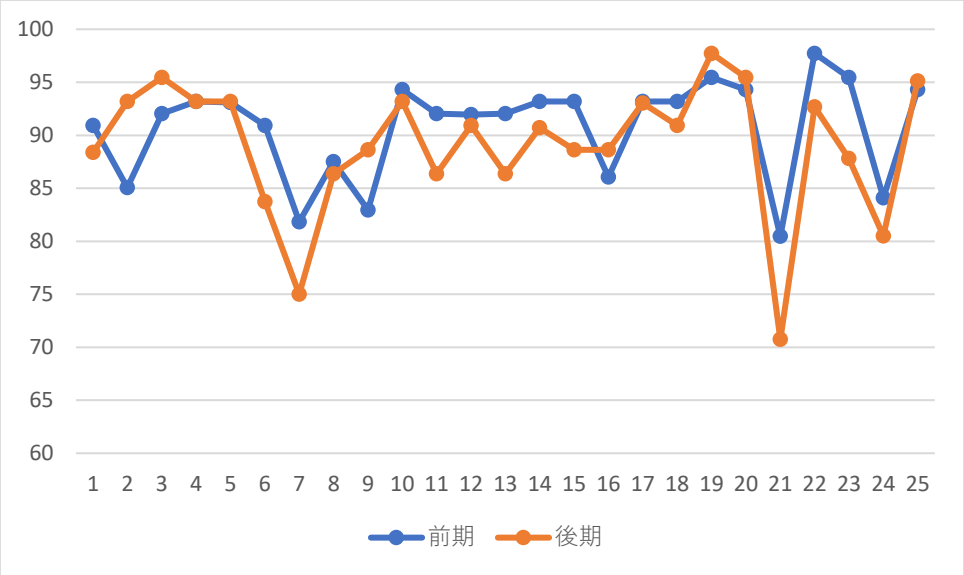
<前期に比べ後期の結果が 10 パーセント以上上がったもの>
⑤職場での実習で「できた」「うれしかった」ことがある（86%→98%）
⑨先生は何のために勉強をするのかをわかりやすく教えてくれる（90%→100%）
⑮規則正しい生活を送るよう心がけている（72%→86%）
⑯朝ごはんをきちんと食べている（79%→91%）
㉔困ったときに家庭や学校において相談ができる人がいる（82%→95%）

⑤について、「できたこと」「うれしかったこと」があることは、実習中だけでなく、日々の授業で目標をもって活動しそれが実習でも生かすことができたということであり、それが次のステップへの励みとなっている。今後も実習先との連携を図っていきたい。
⑨について、教職員の⑥⑩の評価があがったことからも、教職員が生徒を理解し、一人一人に合わせた目標を立て、それに合う「できる状況づくりと支援」をし、生徒に伝わったことで、それが100%という結果になったと考えられる。
⑮⑯については、前期ではこの 2 つは80%以下の低い値であった。学校だけでなく家庭でもこのことについて取り組んでいただいていることがうかがえる。今後も家庭との連携を図っていきたい。
㉔について、学校生活で生徒同士や教職員とのかかわりが増えていく中で、信頼関係が深まったと考えられる。また、家庭でも、学校や実習の様子を生徒と話し合ったり実習の会に出席していただいたいりすることで、生徒の様子を知っていただき、生徒が保護者に話しやすい環境ができたことがあると考えられる。

<前期に比べ後期の結果が 10 パーセント以上下がったもの>
⑦自分のよさがよくわかっている（81%→73%）

⑦については、実習等をしていく中で、自分の課題が見えてきて、「自分は何が得意で何が不得意なのか」「自分に合う職業は何か」など、自分自身を見つめる機会が増えたからこそ、見えてきたものがあると考える。事前・事後学習だけでなく、普段の学校生活の中で本人の良さをさらに伝えていく必要があると考える。

保護者　アンケート集計（25項目）



前期に比べ、微増・微減ほぼ変わらない項目がほとんどであった。しかし、前期であまり高くない評価が後期でさらに低くなる項目が見受けられた。

＜前期に比べ後期の結果が 10 パーセント以上上がったもの＞
②子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる（85%→93%）
　学年に関係なく、どの学年も評価があがった。
②について、実習を重ねていくことで、生徒の目標や課題が見つかり、次に進もうとする姿が実習のまとめの会や家庭でも見受けられたと考えられる。

＜前期に比べ後期の結果が 10 パーセント以上下がったもの＞
㉑家庭での役割を決め、子どもが責任を持って果たせるようにしている（80%→71%）
　学年に関係なく、どの学年も評価がさがった。
㉑については、前期も評価が低い項目であった。家庭において、役割を決めそれを責任を持って果たせるようにすることは、今後の人生活を送る上でも役立つことであると考える。学校では社会生活の授業等で家事に関する技能を身につけられるようにするとともに、家庭においても役割を与えてもらうように促しを今後も行っていきたい。